

令和6年度第1回仙台市廃棄物対策審議会 議事録

- 日 時 令和6年6月4日(火) 14:00～16:00
- 場 所 TKPガーデンシティ仙台勾当台 ホール1
- 出席委員 久田真会長、大原敦子委員、齋藤和平委員、齋藤優子委員、佐藤進次委員、佐藤朋子委員、佐藤渉委員、高橋たくみ委員、田村省二委員(代理出席)、沼田隆委員、山田政彦委員、吉田美緒委員
以上12名(委員定数20名)
- 欠席委員 遠藤智栄副会長、安住浩一委員、川村美智委員、多田千佳委員、沼沢しんや委員、福島康裕委員、藤田祐子委員、北條俊昌委員
- 事務局 環境局長、環境局脱炭素都市推進担当局長、環境局次長、環境局次長兼資源循環部長、環境部長、脱炭素都市推進部長、施設部長、総務課長、参事兼事業ごみ減量課長、資源循環企画課長、家庭ごみ減量課長、施設課長、今泉工場再整備担当課長
- 傍聴人 2名
- 次 第 1 開 会
2 議 事
(1) 一般廃棄物処理基本計画に係る目標の進捗状況等について
(2) 令和5年度の主な取り組み結果について
(3) 令和6年度の新たな取り組みについて
(4) その他
3 閉 会

1 議事要旨

発言者	議事要旨
久田会長	議事2（1）及び（2）については関連する内容となっていることから、まとめて事務局より説明をお願いします。
資源循環企画課長	<資料1・2に基づき説明>
久田会長	ただいまの事務局の説明について、質問や意見を承りたいと思う。
吉田委員	資料2の18ページについて、事業ごみの展開検査は昨年度指導件数470件ということだったが、前年と比べて増えているのか減っているのかをお伺いしたい。
参事兼事業ごみ減量課長	こちらについては、前年度新型コロナの関係などがあり、それほど実績が伸びていなかったため、増加している。
佐藤朋子委員	資料2の15ページの生活ごみの分別推進の回収実施団体のところで、いろいろな団体に集団資源回収を行っていると思うが、状況はどうか。例えば、企業などでパンクして苦情が出ているとかそういったことはないのか。
家庭ごみ減量課長	15ページの集団資源回収だが、こちらは約9割が町内会であり、あとは子ども会というような形で回収をしていただいている状況である。したがって、企業などは回収していない。
久田会長	今の質問に関連して、最近町内会がだんだん高齢化しているほか、子ども会をもうやめるところもあると聞いており、なかなか資源回収が難しくなりつつあるというような声も聞いているため、実態に即したサポートも必要なのではないかと思うが、いかがか。
家庭ごみ減量課長	おっしゃる通り子ども会などは解散するところも出てきている状況である。そういった実態を踏まえ、今後どういったことが必要なのかを考えていく必要がある。
久田会長	ぜひご検討を進めていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。
高橋委員	徐々に成果が出ているというご報告であり、皆様のお取り組みに敬意を表するものだが、お伺いしたいことが2点。1点目が食品ロスの取り組みだが、農家レストランや講座の方でいろいろと取り組んでいるということ

	<p>で伺った。今年に入って、私自身も経験したが、5月の連休明けから様々な団体の総会が1日最低1件、多くて3件など毎日のように続いた。何十という団体の総会に参加させていただいたが、環境省が取り組んでいる3010（さんまるいちまる）運動をやっていた団体は1件だけであった。ぜひそういった団体にも3010運動を推奨していただきたいということと、ホテルなど会場の方にも、申し込みがあった段階で3010運動をぜひ進めてくださいという、もちろん強制ではないので決めるのはその団体だが、そういった取り組みを推進することも必要なのではないかと思う。</p> <p>2点目が、19ページの環境配慮事業者の認定制度である。エコにこマイスター・エコにこゴールドマイスターということで認定されているようだが、何か事業者に対してメリットなどはあるのか。例えば、環境局長の感謝状、ゴールドマイスターには市長からの手紙や感謝状であるとか、事業者がやってよかったと思うような取り組みもあった方が良いのではないかと思った。</p>
家庭ごみ減量課長	<p>資料2の12ページだが、昨年の12月から1月末にかけて、飲食店などで会合や外食をする機会が多い時期に合わせて、市内の飲食店や宿泊施設と連携し、食べ切るというところをお願いし、「ペロリでキラリ おいしく食べきろうキャンペーン」を初めて実施した。宿泊施設は5施設に協力いただいております、その経緯としては、ホテル総支配人協議会にご説明をさせていただき、5施設から協力をいただいたところである。</p> <p>今後3010運動も含め、そういったホテルや飲食店での食べきりについて、これからも推進していきたい。</p>
資源循環企画課長	<p>19ページの環境配慮事業者の認定制度についてご説明させていただく。メリットについてであるが、環境配慮事例集で事業者の皆様の取り組みを取りまとめ、他の事業者にご紹介をする形で横展開を図っている。</p> <p>エコにこマイスター・エコにこゴールドマイスターという2段階での認定であるが、ゴールドマイスターにはプレートを作製し、企業の皆様の玄関や受付のところに置いていただくことで、「環境配慮行動をとっており、市から認定を受けている事業者である」ということを、事業所に足を運んだ方へPRしていただくためお渡ししている。</p> <p>また、事業者のホームページでも認定について積極的に発信いただいております、ロゴマークの活用申請についても速やかに承認し、PRにご活用いただいております。</p>
高橋委員	<p>環境配慮事業者の認定制度については、プレートが配られるということで素晴らしいと思う。それはお送りしているのか、直接お渡ししているのか。</p>

<p>次長兼資源循環部長</p>	<p>もう1点、食品ロスについてだが、ホテルの方はよくわかった。宿泊施設5施設ということではなかなか難しい状況なのかなと感じた。これは推進していただけるということでもよろしくお願ひしたいと思うが、各種団体の方にもぜひお声掛けをお願ひしたいと思う。</p> <p>今の2点について私の方からもお話をさせていただく。</p> <p>1点が食品ロスの関係である。今ご説明したとおり、食べきりの運動はコロナ禍が続いていたためなかなかできなかったが、昨年度久しぶりに実施できた。今ご指摘があったように、前回はホテルや飲食店など、出す側への働きかけはできたが、主催する側への働きかけということも必要だと考えている。今後、経済団体ともご相談をさせていただきながら、今年度の新たな取り組みをしていきたいと考えている。</p> <p>もう1点がエコにこマイスターとゴールドマイスターであるが、エコにこゴールドマイスターについては、プレートを贈呈する式を行い、お渡しするだけでなく、各事業者の取り組みをアピールしていただいている。式はマスコミにも公開し、取り組みを共有してさらに進めていこうということで、そういった面の広報も行っている。こういった取り組みがどうしたら更に広がるのかということは関係者の皆様と議論しており、さらに高いハードルのものがあるのか、別途の表彰であるとか、優良事例を積極的に発信する仕組みがあるのかとか、その点は今後考えていきたいと思っている。</p>
<p>齋藤優子委員</p>	<p>資料1に関して、重量としては減っており、その内容を見ると、かさ高いプラスチックなどが増えているということで、重量的に減ったのかなと思うが、その中で、組成の変化についても市民や事業者の皆様にはわかりやすくお伝えいただければと思う。</p> <p>また事業ごみの組成についても開示いただいておりますが、プラスチックの増加は否めないと思うわけだが、例えば、事業者の分別であるとかそういったところのアクションに関しても、認定であるとか、アクションした事業者に対してメリットがあるような施策はできないものかというご相談である。この事業ごみの組成の数値を見て事務局としての見解を聞かせていただきたい。</p>
<p>次長兼資源循環部長</p>	<p>情報発信については、様々な要因があると思うがごみ減量は着実に進んでいて、プラスチック資源の分別も進んでいる。一方で、不適物の中で最も問題なのはリチウムイオン電池が入った製品が混入しているということである。最近も事故があったため、そういったものの発信はきちんとする必要があると思う。</p> <p>もう1点が事業ごみであるが、プラスチックは法制度上産業廃棄物であり、そもそもここに入ってくるのは適法でない状態ということである。</p>

<p>齋藤優子委員</p>	<p>我々としては、工場での搬入時の展開検査等を通じ指導を行っているほか、先ほどのエコにこマイスターがまさにそうであるが、環境配慮行動全体を支援することが結果として分別の適正管理にも繋がると考えており、展開検査を通じた指導と、環境配慮に取り組む事業者が増えるようにという取り組みと、両面でやっていきたいと考えている。</p> <p>そういった取り組みを進めていただきたい。事業ごみの組成で「その他」が43%ということで、不適物がわかるような開示の仕方だと指導の面でもよりわかりやすくなると思った。</p> <p>また、リチウムイオン電池に関して、資料2の17ページでご説明いただいているが、全国的にも問題になっており、16ページの小型家電リサイクルと不可分な問題だと思うので、抱き合わせで検討していただければと思う。</p> <p>それから、22ページのわかりやすい情報発信と行動する人づくりであるが、仙台市は市外からの転入者や、学生として初めて一人暮らしをするような人が非常に多く、そういった方々へのわかりやすい説明も必要だと思う。また、近年イベント等で全国、海外からたくさんのお客さんが来ることがあるが、観光や経済部局の方々とも連携していただき、非常に先駆的な取り組みをなさっているわけなので、資源循環への取り組みをアピールして、仙台を訪れた人たちに対してもわかりやすく、ごみの分別や捨て方などが伝わるような仕組みにしていいただければと思う。</p>
<p>次長兼資源循環部長</p>	<p>リチウムイオン電池については、小型家電ルートでの回収に加え、廃乾電池類と一緒に週1回収集しており、スキームとしてはかなり身近になったと思う。以前は回収ボックスまで出しに行く必要があったが、現在は、例えば電動歯ブラシのような、電池が入った製品も含めて週1回の廃乾電池類の日に出せることになっているので、これらをどれだけ定着できるかというところを今後頑張っていきたいと思っている。</p> <p>もう1点、イベントでの発信については、イベントで出るごみを適正に処理することや、イベント自体が環境負荷の低いものになるにはどうしたらいいのか、きちんと分別していただくこともそうだが、そもそもイベントで使用するものをどうしていくのかという点が非常に重要だと思っている。</p> <p>今年度は脱炭素先行地域の取り組みも始まっており、その中で、イベントのゼロカーボン化は非常に重要だと考えている。そのためにはバックヤードで対応するだけでなく、ご参加いただく皆様にもご理解いただけるような発信が重要である。イベントのゼロカーボンは課題もあるのですぐということではないが、今年度は様々チャレンジしていきたいと考えている。</p>

久田会長	<p>今のお話は資料1、2の内容であり、PDC A的に言うと、委員からご指摘いただいた内容はこれからご説明いただく資料3の、今後どうするかというところにぜひうまく反映していただければと思ったので、引き続きよろしくお願ひしたい。</p>
佐藤進次委員	<p>資料1からになるが、昨年もこの会議に参加させていただき、昨年状況だと、家庭ごみは順調に減少しており、課題は事業ごみであるというお話をいただいた。また、事業ごみの組成ではプラスチックと厨芥類が多くを占めているということであった。</p> <p>今年の数字を見ると、事業ごみも減量しているということなので、何かバックアップや働きかけがあつての数字なのかをお聞かせいただきたい。</p>
次長兼資源循環部長	<p>ごみ量の減少については、事業ごみだけでなく家庭ごみも減少している。市民の皆様や事業者の皆様のご努力もあろうかと思うが、減り方が急激である。昨年の8月頃から、特に家庭ごみが大きく減少している。また、昨年コロナへの対応が変わつたことで事業ごみ量が戻ってくるのではないかと思つたが、戻ってきていない。ごみ量減少の要因を特定することは少し難しい。</p> <p>ただ、様々なコストが上がつている中で、特に事業者の皆様におかれては、無駄をなるべくなくすことが徹底されている。一例をあげると、飲食店において、調理の過程で無駄が出ることは本当に少なく、厨芥類は主にお客さんの食べ残しであるという話をお聞きする。</p>
佐藤進次委員	<p>今年の事業ごみの組成で厨芥類が減少しているということで、飲食店の無駄をなくすという動きが要因としてあつたことは私も予想をするが、一方で事業者が食品リサイクルに取り組もうとするときに、一番大きい負担は収集運搬である。小さい事業所であればあるほどその負担は非常に大きい。少し話がフライングするが、資料3に、地域を限定して食品残渣を試験的に回収するという取り組みの案内があつたので、すごくいいと思つて見ていた。これは飲食店だけでなく小さな小売店も対象になると思うが、こういう具体的な施策支援があると、事業ごみの厨芥類も減っていくと思う。</p> <p>同じ視点で言うと、今回非常にウエイトが高かつた事業ごみのプラスチックについても同じ特性がある。食品リサイクルも、通常のごみの収集運搬では対応できないので、新たな収集運搬費が発生するリスクが高い。プラスチックも同じで、廃プラ規制法から産業廃棄物扱いになり、これを通常の収集で回収しようとするとうと混在してしまうので、別のトラックが必要になる。その費用の捻出ができないところは、廃プラの分別が進まないことになると思うので、実態としてそういうところがあるということをお共有させていただければと思う。</p>

久田会長	<p>今のご発言は資料3にも関連していたので、議事(3)のご説明をいただいた上でご回答いただきたいと思う。</p> <p>それでは、続いて議事(3)について事務局より説明をお願いする。</p>
資源循環企画課長	<p><資料3に基づき説明></p>
久田会長	<p>先ほどの佐藤進次委員のご指摘について、事務局より回答をお願いします。</p>
次長兼資源循環部長	<p>まず食品リサイクルについてである。委員からもお話があったように、課題として挙げられるのは、収集運搬コストが高くついてしまうことである。通常の可燃ごみとは別に集める必要があるということと、現在、そもそも食品リサイクルをしているところが少ないため、収集運搬のコストが上がってしまう。多くの事業者がいらっしゃってルートで集められればいいが、今は点で集めざるをえないということで、可燃物として処分するよりも処理コストが高くついてしまう。</p> <p>今回のモデル事業では、飲食店が集積している国分町定禅寺通エリアなるべく多くの方々へ食品リサイクルに参加していただき、収集運搬コストを下げられないかということで取り組んでいきたいと考えている。まずは飲食店が多く集まったエリアでの実証を通して、さらなる食品リサイクルについて考えていきたい。</p> <p>もう1点が事業系プラスチックである。事業系プラスチックは、産業廃棄物なので市が収集することはない。事業者の方から見ると、別途産廃契約が必要であり、処理費用も市の処理費用と比べるとかなり高い。また、綺麗なプラスチックは比較的引き取り手があるが、例えば食べ物由来の汚れがつくと処分先の確保が難しいことがあると承知している。</p> <p>法に従ってきちんと処分してくださいというだけではなかなか進まない。特に中小零細の企業にとってはコストもあるし、そもそも処分できる事業者と取引ができるのかといった点など課題が多い。これは全国的に生じている問題であり、法制度上は産業廃棄物なので排出事業者が処分する必要があるが、それだけでは進まないというのは重々承知している。これについては、残念ながらまだ答えを持ち合わせていないが、先ほどの組成からわかる通り、まだまだ事業系プラスチックが工場で燃やされているという現状を重く見ているので、何らかの対応ができないかというのは、研究していきたい。</p>
久田会長	<p>それでは、議事(3)について質問や意見を承りたいと思う。</p>
齋藤和平委員	<p>資料3の取り組みを聞くと、少しずつでも成果が出てきているのだろうと思っており、引き続きやっていただきたい。</p>

<p>次長兼資源循環部長</p>	<p>資料3のごみ集積所課題解決実証事業だが、地域で一番問題になっているのはごみ集積所である。昨日も総会でクレームが出ている。青葉区は6月14日の定例会において、連合町内会長が38人いるわけだが、そこでごみ集積所の管理をもう一度きちんと統一してもらおうと。環境局とかいろいろなところに電話するとごみの捨て方やマナーについて、出る人によって全然違うようなこともある。実際ごみをどうやってきちんと捨てるのか、どこに捨ててもいいのか、例えば、そのエリアの方たちと相談して、そこ以外は駄目なのか。泉区の町内会のトップから言わせると、町内会に入っていないければごみ集積所を使わせませんと宣言しているところもあり、非常に微妙なところがあるが、見解をきちんと統一してもらいたい。</p> <p>今質問したかったのは、今、折り畳みボックス型の集積所という新しいものを計画しているということだが、私は新しい団地なので班ごとに「コ」の字型の集積所があるので全く問題なく、5つ星ももらったりするような集積所なのでいいのだが、そうではなく、古くからある団地などは、一般住宅に網を張って、道路側にごみを置いているというところがある。私は何を言いたかったかという、こういうごみ集積所の課題解決方法の素晴らしいアイデアを、そういうところで積極的にやっていただきたい。ごみを道路におくような形は理想的な町とも思えない。汚い町は汚くなっていくということもあるので、こういう取り組みをどんどん進めていただければありがたいということが1点である。</p> <p>もう1点は、先ほど会長が言っていたが、資源回収のやり方が各エリア非常に行き詰まってきている。町内会でいえば高齢化の問題もある。もう1つは、子ども会はもうなくなるというふうになってきている。実際、仙台市内の学校でも子ども会はもうやめよう、やめたというところもある。私の町内会は子ども会ですべてやらせており、それに我々が支援する形だが、この子ども会の問題をどうするかというのは、今後の仙台市全体を考えると環境局が中心となる局だと思っている。子ども会のことに関して話をすれば教育委員会になる。でも、それは我々一般市民がやるのではなく、環境局が将来のために子どもの資源回収というか資源のことに対しての考え方を伝えていくというのであれば、今まで以上に教育委員会なりと深く関わっていただきたいと思います。これからも少子化が進むので、道路沿いにも空き地がたくさん出てきているはずである。仙台市内の中心部は別かもしれないが、そういうところを借りて、そこに綺麗で理想のごみ集積所を作って、仙台市はこのぐらいごみを綺麗にしているなど、思い切った施策もやってもらえればありがたいと思っている。ぜひ子ども会や町内会と連携しながら、今まで以上に具体的にご指導いただければありがたいと思う。</p> <p>集積所の問題は、大きな課題が多いと思っている。現在仙台市では、集積所は基本的に町内会の皆様に設置・管理をしていただき、我々が収集に</p>
------------------	--

	<p>行くという役割分担になっている。高齢化の問題、担い手不足の問題、あるいは少子化ということで、集団資源回収の担い手であった子どもたちの数も減っている中でこれまでの仕組みはうまくいかなってきているというのはおっしゃる通りである。</p> <p>紙類は行政回収も行っているのでそちらで一定対応できるが、今お話があったのは、子どもたちが資源回収ということに関わるということは、単に資源を集めて売り払うというだけでなく、その大切さを理解する非常に大事な場だという側面があるため、行政が紙を回収すればいいというだけではないというのはおっしゃる通りだと思っている。</p> <p>関係する局としては市民局、教育局になろうかと思うが、どのようにしていけばいいのかというのが、来年度予定している中間見直しにおいても重要なテーマである。どのようにして維持可能な仕組みにしていくのかについて検討したい。</p> <p>もう1点が集積所の鳥獣被害対策ボックスを使った課題解決実証事業であるが、これも地域だけでは維持が難しい中で、行政がもう少し前に出て一緒に考え、行動しましょうという事業である。まずは今年度実証的に町内会、クリーン仙台推進員の皆様とやり方を考えていき、いずれ全市的な支援メニューにしたいと考えている。</p>
久田会長	<p>町内会はもはやボランティアでは無理だろうと思う。若年層の多い地域とそうでない地域、高齢層の多い地域とそうでない地域、多寡がいろいろあり、集合住宅に住んでいらっしゃる皆様は恐らく町内会とは別組織になっている。そういう実態に即した担い手の確保についてはご検討いただきたいと思う。</p> <p>また、集積したごみを集めてくれる人がいつまで確保できるかとか、ソーシャルワーカーの問題もいろいろあると思ったので付け加えさせていただいた。</p>
大原委員	<p>昨年、女性会では社会貢献委員会という委員会ができ、私が委員長を拝命しているが、ここで学んだことを活かす良いチャンスだということもあり、食品ロスを削減することと、困っているところに食料の支援をしていくこと、この2つの社会貢献を目標として活動している。</p> <p>今年の3月、家庭ごみ減量課長の菊池様に、仙台市の取り組みや、家庭から出てくるごみの量が総量の半分を占めているというデータのお話をいただいた。同時に、ふうどばんく東北 AGAIN の富樫さんより食糧支援についてのお話をお聞きし、早速4月にフードドライブを商工会議所の女性会で開催し、AGAIN さんにお届けした。また、5月29日に、資料3の6、食品ロス削減に関連するが、せんだい食エコリーダーの佐々木さんに早速セミナーを開催していただき、大変ためになるお話を伺った。冷蔵庫の中から出るごみを削減する方法を冷凍貯金ということで、野菜も冷凍し食材と</p>

<p>家庭ごみ減量課長</p>	<p>して活用することでごみを削減していくというお話だったが、本当に面白く、大変ためになった。</p> <p>女性だけではなく、今は男性も料理をするので、ぜひ食エコリーダーの皆様が活躍する機会をどんどん作っていただければ、非常に大きな力になるのではないかと考える。</p> <p>先日、商工会議所の女性会でお話をさせていただいたが、経済団体に行ってお話する機会はなかなかないので、貴重な機会をいただいたと考えている。</p> <p>その中で、仙台市としての食品ロスの取り組みであったり、せんだい食エコリーダーの活動内容であったりをお話させていただいた。食エコリーダーは5名いらっしゃるが、様々なところに出向いていただき、仙台市の取り組みや食品ロス削減に繋がる具体的な取り組みを皆様にお伝えすることが、食品ロスの削減に繋がると考えているため、今後も食エコリーダーを活用しながら、様々取り組んでいきたいと考えている。</p>
<p>藤田環境省東北地方環境事務所次長 (田村委員代理)</p>	<p>私からは1点コメントさせていただく。資料3で令和6年度の新たな取り組み、それから資料1、2ではこれまでの取り組みをご説明いただいたが、いくつかの取り組みについては循環経済、サーキュラーエコノミーの文脈でPRできるのではないかと考えた。サーキュラーエコノミー、循環経済というのはこれまでの3Rの取り組みに加えて、地域活性化や地域の経済成長も念頭に置いた取り組みのことを指す。今年の夏に第5次の国の循環型社会形成推進基本計画が策定される予定であるが、その中でもサーキュラーエコノミーというのが大きな柱として打ち出される予定となっている。</p> <p>仙台においても、今年1月に宮城県主催でセミナーを開いたり、3月には東北経済産業局、経済産業省がセミナーを開いたり、盛り上がりを見せている。</p> <p>東北地方環境事務所でもサーキュラーエコノミーに関しては力を入れていくつもりであり、本年度中に普及啓発的なセミナーなどを開催できればと考えている。</p> <p>そこで最初の話に戻るが、全国的にもサーキュラーエコノミーの取り組みは広がっており、それをPRする自治体も広がっている。仙台市はかねてから先進的な取り組みをやっていらっしゃるの、それをサーキュラーエコノミーの切り口でPRすることを検討されてもいいのではないかと考えた。</p>
<p>資源循環企画課長</p>	<p>資源循環を経済分野でどうやって取り上げていくか、地域の成長にどうつなげていくか、これまでの廃棄物処理の考え方から更に1歩進んで取り組んでいくという視点は非常に重要だと考えており、具体的なあらわれの</p>

高橋委員	<p>1つとして、今年度組織名を変更している。昨年度は廃棄物企画課長であったところを、今年度から資源循環企画課長ということで、組織としてあらわしている。</p> <p>ただ、具体的な事例としてはこれから創出していくという視点であり、大きな1つがプラスチックを中心とした資源循環の見える化の取り組みを進めていくことで、サーキュラーエコノミーを市民の皆様に具体的に感じていただくということが重要だと考えている。今年度、その視点を十分に意識しながら、施策を展開していきたいと考えている。</p> <p>2点お伺いする。1点目がごみ集積所課題解決実証事業ということで、この折り畳みごみボックスを実証として使うということだったが、先ほど齋藤和平委員からあった通り、集積所の問題は以前から議会でも取り上げさせていただいている。どのような経緯でこういうボックスを導入しようというきっかけになったのかわからないが、これは地元の企業で作られているものであるか、それとも県外の事業者がやっているものか、まずそちらを伺いたい。</p>
家庭ごみ減量課長	<p>このごみボックスだが、他都市で実際カラス被害の課題解決のためにこのごみボックスを導入し非常に効果があるというお話を伺っており、導入する予定で考えている。ものとしては、県外の企業が製造しているものである。</p>
高橋委員	<p>このようなボックスは地元の企業に頼めばつくれるものだと思う。集積所は数があるので、今後進めていく上でもこういったボックスを地元企業に作ってもらおうとか、地元に戻元するような仕組みなども踏まえて考えていただきたいと思う。こういうボックスは、写真にある通り壁沿いとか、歩道で言えば家側など、そういったところに設置可能であるように思う。先ほどもあった通り、ごみ集積所が歩道上にあったり、通学路上にあたり、そういったところもあるので、それらの解決方向はまだ見つからない印象を受けるが、ごみの夜間回収、夜の時間帯に出すことについて、カラス被害や臭いの防止、そして朝の通勤時間帯の混雑を避けるためにも、ご検討を改めてしていただきたいと思う。</p> <p>もう1点お伺いしたいことがある。家庭ごみ収集運搬ルート最適化実証を若林区で行うということでご説明があったが、これはタブレットの導入も含めて仙台市の予算で実証実験を行うということでのいいのか。</p>
資源循環企画課長	<p>はい。</p>
高橋委員	<p>委託業者の中には、会社独自で同じようなシステムを入れているところがあると聞いている。なぜわざわざ仙台市のお金を入れて実証実験をしな</p>

<p>次長兼資源循環部長</p>	<p>ければならないのか、独自でやっている会社にデータの提供協力をしてもらえばよかったのではないかと思う。多額の資金を導入して実証実験を行う理由をお聞きしたい。</p> <p>まず、先ほどのごみボックスについては今回実証事業ということで、すでに他都市で使われているものを調達するが、もし本格的に導入するという場合は、仕様を定めて地元で作っていただくことも重要だと思っているので考えていきたい。</p> <p>もう1点が収集運搬ルート最適化実証であるが、家庭ごみは委託で収集しており、一部委託業者が独自にシステムを導入しているが、それはその会社にとっての管理であり、委託元として全車両が今どのように動いているのかを管理できなければならないと考えている。本来そこは我々の委託費用の中できちんと行われるべきだが、今は各社の努力で一部やられているので、きちんと我々が費用を負担して全体のシステムを組んで管理していくということが必要だと考えている。それにあたり、どういったシステムが必要かということが1点あるが、今回は単にシステムの導入ということではなく、そのシステムを使ってどのように効率化ができるのかをコンサルティングとしてやっていただくということである。従って、今回は仙台清掃公社の車両に一時的にシステムを載せるが、あくまでも目的としてはどういったシステム仕様がいいのか、単にナビシステムであれば地元企業でもご提案があるが、そうではなく、それを活用してどのような工夫をすれば効率的になるのかという、その知見を持った事業者を選定し、今年度試していきたいと考えている。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>今お話にあったようなデータは、既存で独自で入れている事業者からは取れないということではよろしいか。</p>
<p>次長兼資源循環部長</p>	<p>他都市でもコンサルティングを受けシステムを導入し収集の効率化を図っている事例があり、現在走っているデータをとるだけであればご指摘の通り、すでに導入しているところからデータをいただければいいが、一体どういう工夫をすればいいのかについては、今回委託することで成果が得られるように取り組むということである。</p>
<p>山田委員</p>	<p>7の家庭ごみ等指定袋のユニバーサルデザイン化は非常に大切なことであると認識している。</p> <p>高齢者が増えたり色覚弱者の方がいたりということで、サステナブルや多様性の観点から大切なことだと思っている。</p> <p>質問であるが、本来、議題（1）と（2）で質問すればよかったが指定袋の話も出たため、家庭ごみの収集に関してである。小泉政権下で在宅医療が進み、ご自宅で注射針を含め様々な医療をされる方が多くなってい</p>

<p>資源循環企画課長</p>	<p>る。そういったものが家庭ごみの中に混入し、中には鋭利なものもあると思う。そういった面で、ソーシャルワーカーの視点からどのように対応すべきか考えていた。わかりやすい情報発信と行動する人づくりとも連携してくることだと思うが、現状とどのような対策をされているのかをお聞かせいただきたい。</p> <p>在宅医療廃棄物の収集と、排出側である市民に対する注意喚起という点のご指摘であると理解した。在宅医療廃棄物は、医療従事者や薬局で回収いただくのが基本的なルールになっている。しかし、厚生労働省で出している通知においては、鋭利でないものについては一般廃棄物として出して構わないということになっている。収集することは非常に重要であるため、ルールを守って、鋭利なものは収集作業員を傷つけない状態で出していただくのが最低限必要なことであると考えている。こちらについては、2年前になるが薬剤師会・医師会にもお話をさせていただき、在宅医療を受けている方々、在宅医療を提供している方々に、処分方法をお伝えいただけるようお願いしている状況である。</p> <p>いまだに混入していることはあると思うが、作業員に危険を及ぼさない出し方の周知は引き続き取り組んで参りたい。</p>
<p>山田委員</p>	<p>薬局などでの回収は十分存じ上げているが、そうでないものも出てくる可能性があるということで、ソーシャルワーカーを守るという観点からもそういったことは必要になると認識している。</p> <p>また、先ほどいろいろと話が出ていたが、少子高齢化により子ども会を含め形が変わってくる。それから我々ソーシャルワーカーの立場から言うと、生産労働人口が減り働き手の問題が出てくる。</p> <p>ソーシャルワーカーと言われているが、実際は3Kの部分非常に強い業界であり、人の集まりが難しい。そういったところで市民と行政とソーシャルワーカーである業界と、今後の社会構造の変化について中長期的にご検討いただく機会があっても良いと思うので、意見として申し上げさせていただきます。</p>
<p>佐藤朋子委員</p>	<p>お礼というかご報告であるが、資料2の13ページに生ごみリサイクル講座の記載があるが、社会学級でも昨年この講座を受講させていただいた。マンションが多い地域に住んでいるため、生ごみの処理をどうするかを皆で考えていたが、ベランダでもできるダンボールを使った生ごみリサイクルを学べた。こういったものも少しずつ広がっていけば活用される方が多くいらっしゃると思うのでよろしく願います。</p>
<p>齋藤和平委員</p>	<p>確認であるが、集積所の管理は使用者がするというので、私達で言うと班や町内会である。それでは捨てる側から考えたとき、どこの集積所に</p>

	<p>捨ててもいいのかということが1点。もう1点は、我々の場合、班が当番制で集積所を綺麗にしておき、そういうところがほとんどだと思うが、そういうところの了解を得れば、そのエリアでない人もごみを捨てていいのか。もしくはそのエリア以外の人は駄目だという考え方なのか、どのようにお考えなのかお聞きしたい。</p>
<p>次長兼資源循環部長</p>	<p>現在の仕組みとしては、ごみを出す皆様に団体を作って、自分たちで設置管理をしていただき、収集して欲しいということで、市に申し出ていただくものであり、届けられた集積所はその団体の皆様が利用するというのが前提であると考えている。そのため、基本的には関係のない皆様は利用しないものと考えているが、当然管理されている側の了解のもとごみを捨ててもいいという運用もあろうかと思う。しかし、あくまでも利用される皆様に収集の届けをいただいているため、団体の皆様が利用するというのが基本であると考えている。</p>
<p>齋藤和平委員</p>	<p>それでは、よそから来た人がごみを捨てたときには注意をし、使ってもらっては困ると言ってもいいということか。また、町内会に入っていない人たちはどうなるのか。その辺も踏まえてお聞きできればと思う。</p>
<p>次長兼資源循環部長</p>	<p>先ほど申し上げたように自分たちが使用するために設置管理をしているわけなので、それ以外の方々が自由に使えるということではないと我々は理解している。</p> <p>町内会に入らない方の問題については、入らなかった理由であるとか個々の事情があるためはっきりしたことは申し上げられないが、基本的には利用される皆様に自分たちの集積所をご準備いただくということである。</p>
<p>久田会長</p>	<p>おそらくトレーサビリティだということだと思う。昔は水色のポリペールを使っていて、名前が書いてあるから誰が排出者かすぐにわかった。今はそういうシステムではないのでなかなか悩ましいと思う。</p> <p>最後に少し私から付け加えさせていただきたい。資料2が令和5年度にやったこと、資料3が令和6年度にやろうとしていることで、ここには何か繋がりが欲しいと思っていて、積み残しはしっかり拾っていく必要があるだろうと思う。</p> <p>1つは、布の混入率だけが下がっていないので啓発をしたほうがいいと思った。布は燃えるので家庭ごみに入れてしまうのだと思うが、こういう出し方をすると家庭ごみに入れずに済むとか、その辺の働きかけをすると数値が変わっていくのではないかと思った。</p> <p>2つ目はごみの総量が思いの外減っているということで、良い傾向である一方で、単に経済活動が停滞しているのではないかというきらいもある</p>

	<p>る。経済が活性化するとごみは増えがちなのが基本的な因果関係なので、経済活動が維持されながら減っているのであればいいが、仙台市自体の活性度が減っているなら問題であることから、多角的な分析を進めていただくのがいいと思った。</p> <p>それから、資料3の1の資源循環の見える化であるが、資源そのものの見える化だけでなく、コストの見える化もしたらどうかと思った。例えば、100円で水が何リットル買えるかというのを考えると、コンビニなら500ミリリットルしか買えないが、水道水だともものすごい量を買える。しかも、200何種類の衛生分析を経たものである。よって、ごみを処理することにどれぐらいのコストがかかっているのか、それをきちんと食べきるとコストがどれぐらい減るのかを見える化するというのも、令和5年度までで積み残したことを令和6年度につなげていただくという観点でぜひメモリに入れておいていただきたいと思った。</p> <p>最後、次第4「その他」ということで、何かあればご発言いただきたい。</p>
吉田委員	<p>資料3に関わると思うが、仙台市が脱炭素先行地域に選ばれたということで、定禅寺通の食品リサイクルもその取り組みの1つということであった。仙台市が脱炭素先行地域に選ばれたという話を仙台市民にすると「なにそれ」という反応が結構多いので、ぜひ脱炭素先行地域に選ばれてこういう活動をしているというのを全面的に出して活動いただけるといいと思った。</p>
久田会長	<p>アウトリーチ活動というものだと思う。知りたい人はここへという広報だけでなく、むしろこちらから打って出るぐらいの広報活動をするアウトリーチするので、ぜひその辺もご留意いただければと思った。</p> <p>質問がないので以上で終了する。審議の円滑な運営にご協力いただき感謝する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>